

イスラエルに侵攻する北の国々

2025年11月2日

エゼキエル書 38章1節～39章16節

序：大患難期の前に起こること

(1) (時系列)

- ☆①世界戦争
- ☆②イスラエルが国家として再建（離散している地から帰還）
- ☆③ユダヤ人のエルサレム奪還・統治
- ★④北からの数ヶ国の連合軍がエルサレムに侵攻
 - ⑤世界統一政府の出現
 - ⑥十の王国（世界統一政府が分裂）
 - ⑦反キリストの台頭
 - ⑧一時的な平和と安全（⑥と⑦が進行中）
 - ⑨反キリストとイスラエルの7年の契約（大患難時代のはじまり）

(2) (どの段階で起こるか不明)

- ①暗黒（第一回目、全部で5回）
- ②エリヤの到来（メシア再臨の備え）
- ③第三神殿
- ④教会の携挙
- ⑤キリストの御座のさばき（携挙された信者への報奨）
- ⑥キリストと教会との婚姻

⑤⑥は④の結果

北の国々がイスラエルに侵攻（大患難期が始まる前に起こる4つ目のこと）
現時点では成就していない

I. 侵攻して来る北の諸国連合とはどの国々か エゼキエル 38・1～6

(1) ロシア

メシエクとトバルの大首長であるゴグの地のマゴグ（新改訳2017）

ロシ、メセクおよびトバルの君たるマゴグの地の王肩書き（文語訳）

メシエク、トバル、マゴグという部族（黒海とカスピ海の間に居住）
ロシア南部（イランとトルコの一部を含む）

ロシ

ロシア北部

※現在のロシアにはこれらすべての地域が入っている（北の果て）
北の諸国連合の首謀国はロシア、そのロシアの支配者がゴグ

(2) 北の連合軍に参加するロシア以外の国々 地図参照

- ①ペルシャ：現在のイラン
- ②クシュ：エチオピア
- ③プテ：ソマリア（エチオピアの隣国）
- ④ゴメル（ゲルマイニア）：ドイツ
- ⑤ベテ・トガルマ：アルメニア

- II. どこに侵攻するのか エゼキエル 38・7～9
イスラエルの山々
イスラエルはメシアを信じない状態で帰還、再建国を果たし、居住
1948年以降のイスラエルの状態 8節

この侵攻は大規模 9節

- III. 侵攻の目的 エゼキエル 38・10～13

(1)略奪(家畜、金銀)

①死海の豊富な鉱物

②中東の活動拠点

計画・策略を練っている

(2)侵略に反対する国々

①シェバとデダン：北アラビアの国々

②タルシシュとその若い獅子たち：スペインとスペインから誕生した中南米の国々(ブラジルは除外：ポルトガルから誕生したから)

- IV. 侵攻・略奪の経過 エゼキエル 38・14～16

①大軍勢で来る(優勢)

②途中までは、順調・成功に見える

③神がイスラエルを懲らしめるため、侵攻諸国を器として用いるが、最終的には、神が北の連合諸国をさばかれる 結果：彼らの敗北・滅び
ご自身が聖であることを顕示する

※来週、侵攻の結末を取り上げる

- V. まとめ

(1)大患難期の前に起こることの内、時系列では4番目の北の諸国連合のイスラエル侵攻に関して、エゼキエル書38章から学んだ

(2)イスラエルに侵攻して来るロシアと他の5ヶ国は、今すでに存在している
(国名、地名が変わっても地形は変わらない、神のタイムテーブルは不変)

(3)神はご自分の民を懲らしめるために、敵や異邦人をお用いになる。懲らしめられた民は回復するが、懲らしめの器となった敵対者は滅ぼされる

(4)北からの侵略軍の首格はロシアとその指導者。ロシアは伝統的に反ユダヤ主義の国。過去も現在も未来もそれは一貫している

(5)この北の連合軍のイスラエル侵攻は条件が満たされれば、勃発し、結果ロシアはそのとき亡くなる